

「一般社団法人 社会福祉経営全国会議」



第3期 管理職養成学校ニュース

2023年11月17日発行 (No.3) 連絡先/〒543-0045 大阪市天王寺区寺田町 2-5-6-902



～第2講座を報告します～



10月26日に開催された、第2講座「社会福祉法人の在り方を学ぶ」の様をお伝えします。講師は、養成学校校長でもいらっしゃる佛教大学名誉教授の浜岡先生です。第1講座では、管理職としての在るべき姿を掘り下げるとともに、「民主的経営とは何か」という面から社会福祉法人を考察しました。そのうえで、自分たちが拠って立つ基盤である社会福祉法人そのものの歴史をふりかえり、権利としての社会福祉法人の在り方を学ぶのが第2講座のテーマとなります。

第1講座が終了するや否や、第2講座に向けての「航海」が始まります。その中身とは・ ・ ・
受講生は、開講前に配布された基本テキストや指定資料の読み込みを通じて、社会福祉法人をめぐる外的・内的環境の変化についてのインプットに励みます。そのうえで、受講生が属する4つのゼミで開催される「自主ゼミ」での意見交換を通じて、情勢認識が深められていくことに意義があります。そして、各ゼミでまとめられた論議内容や質問項目について、浜岡先生から見解やヒントをいただくこともできました。これまでも講じてきた学びの仕組みですが、今回は、受講生の主体性が一層際立ち、文字通り、ゼミナールらしい自主的な学びが展開されています。

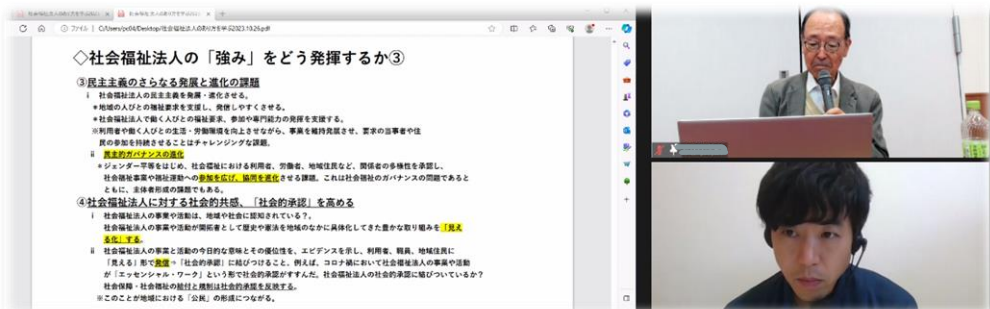


さて、当日の午前中は、養成学校恒例のプレゼンテーション。第2講座のテーマは『「わが法人の経営理念」と「地域で果たす役割について」』です。事前準備として「法人のトップ或いはそれに近い方からお話をうかがう」ことをお願いしました。それは、ややもすれば、日常に追われてしまう多くの受講生にとって、それぞれの法人理念を引き継いでいく立場を意識する貴重な時間でもあったようです。

そして、迎えたプレゼン本番、3分間で地域住民対象に法人を語り、地域で果たしている役割を説明する、というテーマでしたが、全体的に、前述のインタビュー等を活かし、「社会福祉法人〇〇の一員である自分」というアイデンティティを確かにしていたことが伝わりました。また、自主ゼミ内での相互評価が有効であったという声があがっていました。そして、浜岡先生からは、住民に伝わったかどうかという点で、なお工夫の余地があるのでは、という指摘と、限られた時間の中での言葉の選び方に関して助言をいただきました。さらに、この日、第2講座にお付き合いいただいた垣内先生からは、先人が築いたものを理解し、時代にマッチした内容や形式で伝えていくことの大切さについてコメントをいただきました。社会福祉法人の事業や活動を「見える化」することによって、地域住民の「共感」や「承認」を高めていく。このあたりは、次回、第3講座につながる課題となってきます。



午後は、浜岡先生がリードする特別ゼミナール。多忙な日常で社会福祉法人の在り方を落ち着いて考える時間は、年々持ちにくくなっているのではないのでしょうか。養成学校はそういった意味でも貴重な時間となります。



1951年の社会福祉事業法施行から、1990年代後半の基礎構造改革で狙われたもの、それは社会福祉法人を福祉サービスの供給主体へと押し込むことでした。それが社会福祉法人制度改革においては、市場化された福祉サービスに乗れない層の受け皿の役割が期待されるという変転ぶり。社会福祉法人に対して公益性を求めるといふ動きの一方で、ガバナンスは限りなく営利企業に近い形をも要求してきています。これらの流れを歴史的経緯の中で押えていくことは中々大変です。前記のとおり、予め、自主ゼミを通じて深めるべき論点は絞り込まれていましたが、それでもなお、網羅的理解に向けての道は険しく、今後の「弛まぬ学び」の必要性を受講生一同が強く認識したことと思います。

養成学校の受講スタイルは、これまで述べてきたように、まず、個別で基本レジュメ、関連資料に挑み、自主ゼミで深めるべき点や疑問を整理し本講義に挑むというものです。そのうえで非常に重要なことが、本講義後のふりかえりとなります。多くのゼミが1、2週間以内に自主ゼミを開催していますが、ここで、「弛まぬ学び」の一コマをご紹介します。

あるゼミでは、それぞれの受講生が自身の事業分野に引き寄せて、外部情勢の変化に関して再度の意味づけをおこなっています。そこでは、署名活動・要望書提出、ひいては運動の捉え方といった平素の取り組みについて、地域住民や他の社会福祉法人の共感をより集められる方策まで論議が広がりました。他者のふりかえりに呼応して、気づきが気づきを生み出す、そこでは、まさに集団で学ぶダイナミズムが発揮されています。「事前学習→本講義→(本講義の反芻)→ふりかえり→実践における新たな取り組み」管理職養成学校らしい、学びのPDCAサイクルを特筆しておきたいと思います。そして、このような講座の基本設計について、大所高所から助言くださった浜岡先生には改めて感謝申し上げます。

さて、1日の学びを通じて、「新しい戦前」ともいべき危機的な社会情勢の中で、社会福祉法人が、民主主義のさらなる発展と進化という、大きな課題に対応する手掛かりを得られたように思います。私たち、ひとりひとりが社会福祉法人の事業と活動の今日的な意味をわかりやすく地域に発信する主体であることを大いに実感しつつ、受講生の皆さんが、それぞれの法人の「理念のバトン」を受け継いでいくことを願い、第2講座の報告とさせていただきます。

次回、第3講座は京都丹後地方に舞台を移した1泊研修となります。長丁場の養成学校もいよいよ山場。関係者のみなさま、引き続きの支援をお願いします。



関係者のみなさま、引き続きの支援をお願いします。

~修了式(第5講座)に向けての各ゼミでの進捗状況も報告されました!~

第3講座は、11月21日(火)22日(水) 京都府丹後地方 与謝野町を舞台としたフィールドワーク。よさのうみ福祉会とシオノ鋳工を訪ね、組織運営や実践を学びます。

